

3. 調査報告内容

各大学のスポーツセンターの管理・運営の実情、会費、利用料金、施設およびアンケート調査報告、面接聞き取り調査等である。

II 調査対象大学のスポーツセンターの現状

1. クイーンズランド大学

(1) クイーンズランド大学（以下UQと略す）の概要

1910年に創立され、現在約2万8千人の学生が学んでいる。このUQでは農林水産、建築・都市計画、地域・文化研究、教育・教師養成、工学・テクノロジー、法律、自然科学、心理学、社会科学、医学、福祉、体育等といった幅広い分野を専攻することができる。

メインキャンパスはブリスベン市内から約7キロのセント・ルシアにある。広大なキャンパス内には近代的な講堂（写真1）や研究室、図書館などの学習関連施設が整備されているのはもちろん、ショッピング・アーケードや映画館、各種スポーツ施設なども完備され、あたかも小さな街といった様相を呈している¹⁾。

このUQではクイーンズランド大学スポーツの施設部のマネージャーであるCraig Hutchings氏にUQのSport and Physical Recreation Associationについて面接調査することが出来た。

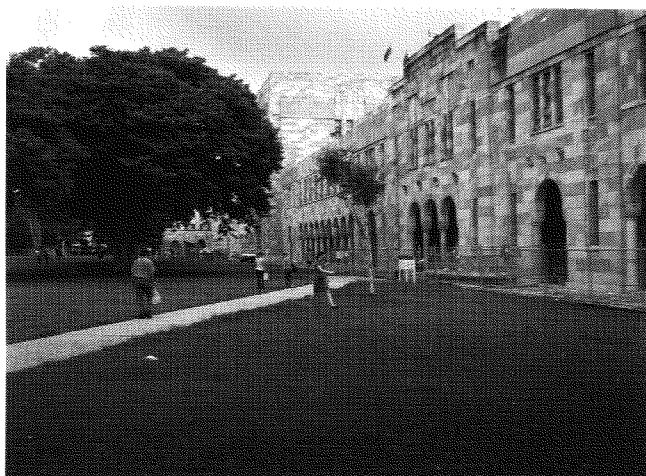


写真1：UQ グレートコート

(2) UQ スポーツの経営・管理組織

UQ スポーツの経営・管理組織図は図1-1の通りである。

まず、評議会の構成メンバーは財務諮問委員会のメンバー、大学構成員から選出された代表者、会員になっているクラブから選出された代表者、それぞれの学部フルタイムの学生によって選出された代表者、パートタイムの学生によって選出された代表者、大学院生から選出された代表者、選挙委員から成る。

そして、管理委員会の下にディレクターがおり、そのディレクターの下に4つの部門にそれぞれマネージャーがいる。このディレクターと4つの部門のマネージャーで上級スタッフを構成している。

その4つの部門とは、UQスポーツをサポートするコマーシャル部、マーケティング部、そして運営する施設部、スポーツ&レクリエーション部である。コマーシャル部には財務、情報サービス、管理、人材、法律関係の各担当課、マーケティング部には行事・祭典、PRの各担当課、施設部にはオーバルの予約、アクアティックセンター、スポーツ&フィットネスセンター、構内5オーバル、テニスセンター、資産管理、Gattonキャンパスの施設の各担当課、スポーツ&レクリエーション部にはレクリエーション、競技会、クラブスポーツ&大学内スポーツ大会、Gattonキャンパスのプログラム、行政的支援の各担当課があり、それぞれに専任のスタッフや臨時のスタッフが張り付いている。

(3) UQ スポーツの概要、施設および利用料金

① UQ スポーツの概要

UQスポーツはUQでのスポーツやダンス教室、ヨガ、乗馬のような様々な種類のレクリエーション的活動を組織している。また、セント・ルシアにあるプール、陸上競技場、ジム、テニスコート、競技場の各スポーツ施設、そしてHerston, Ipswich, Gattonキャンパスの施設をも管理している。

UQスポーツには40のスポーツクラブが加盟している。また、公共スポーツ競技会や大学間競技会のためのクラブ、キャンパス内のスポーツ行事をも組織している。

UQスポーツの会員はUQの学生の他に卒業生、大学職員、学生の両親も会員になることができる。会員には施設利用料金の割引や様々なプログラムへの参加等が可能といった特典がある。UQの学生は自動的に会員となり、他の会員と同様年間\$115.00（以下オーストラリアドル²⁾）を支払っている。2001年の実績によると、31,539名が会員登録しており、その内学生（フル、パート両者）会員が94%を占める。

図 1-1 UQ スポーツの経営・管理組織図

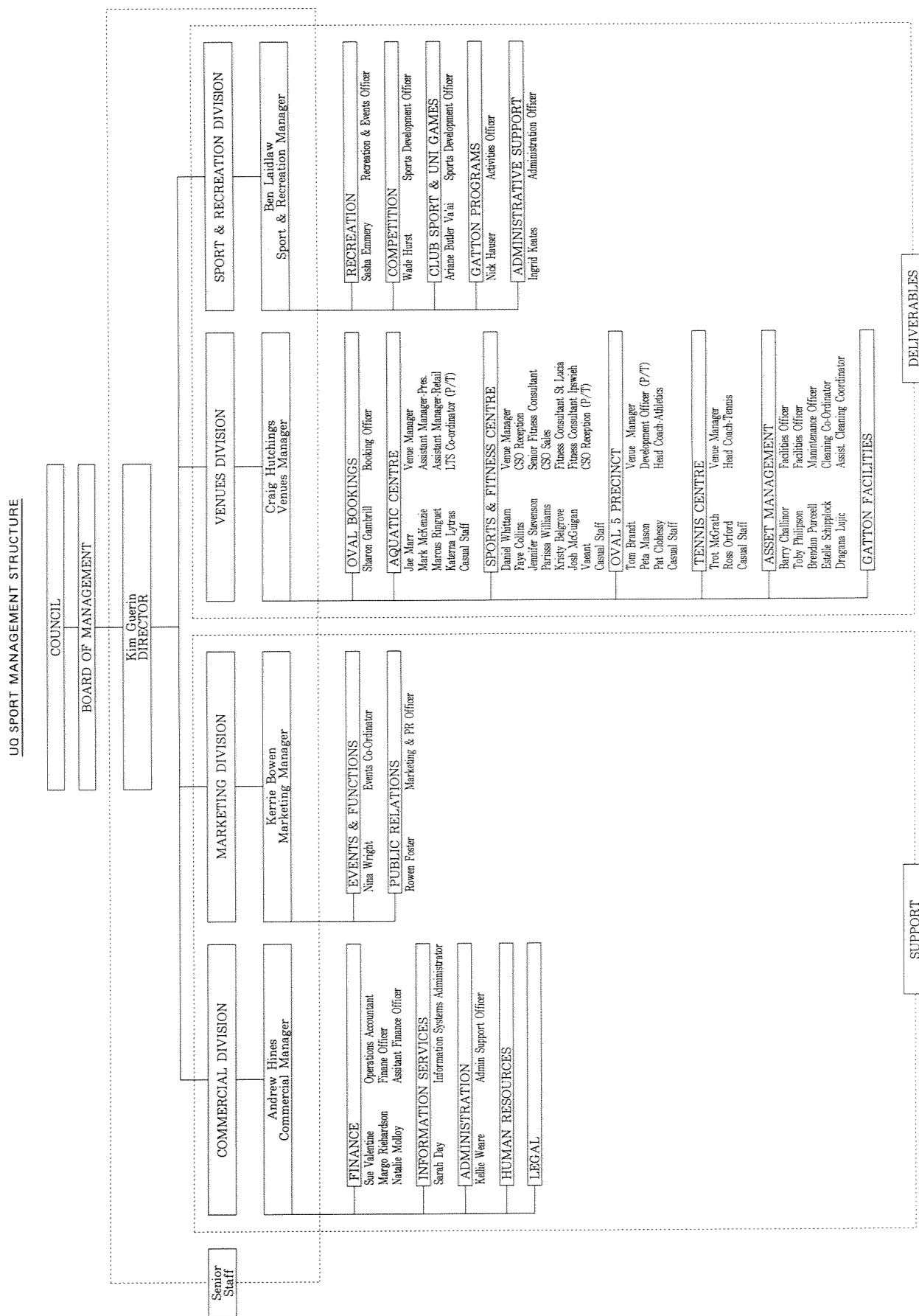


図1-2 UQスポーツの施設

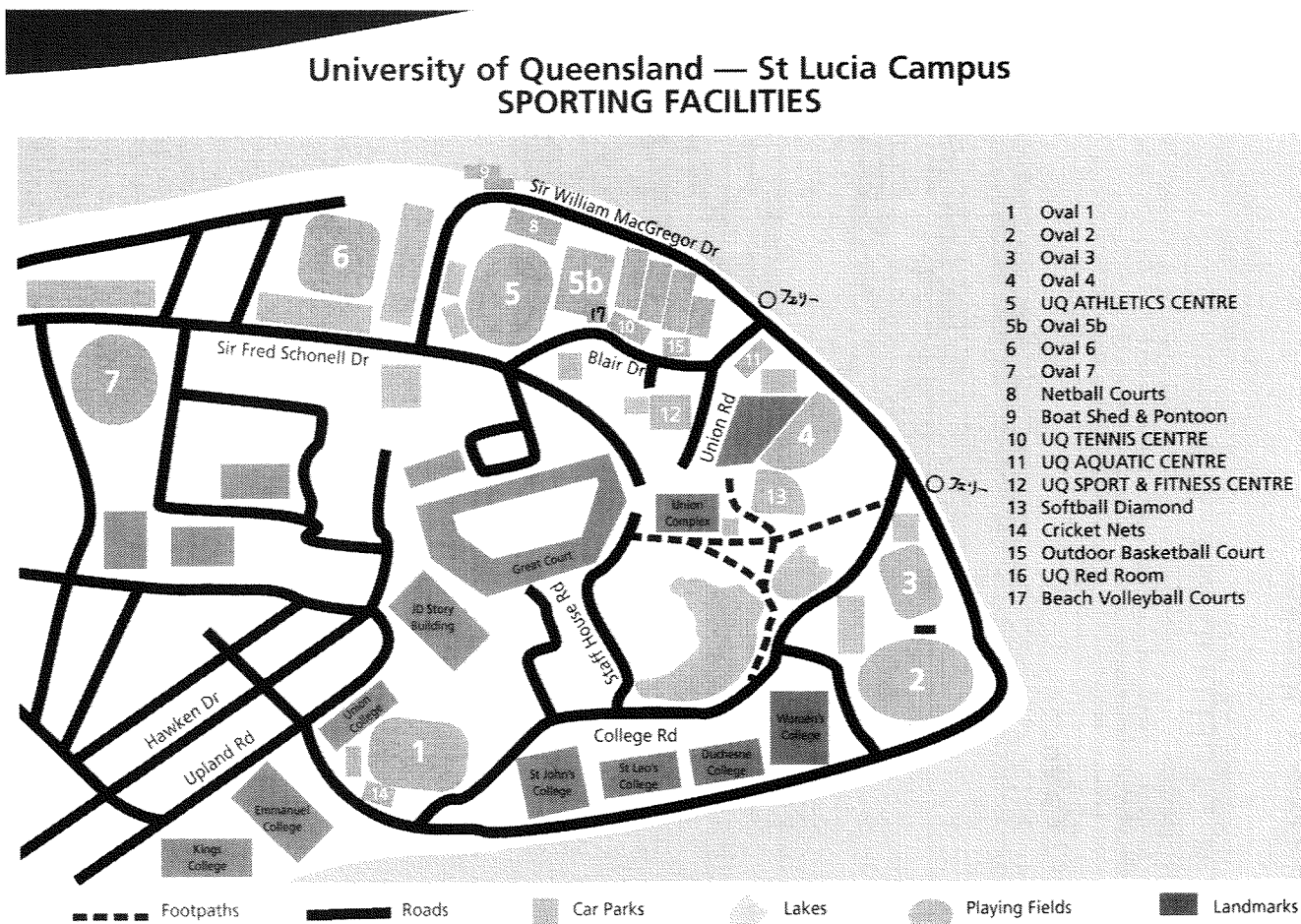


図1-2はUQセント・ルシアキャンパスのスポーツ施設を示したものである。主なスポーツ施設はグレートコートを中心とする各学習施設とブリスベン川の中に位置している。シティキャットフェリーから降りてキャンパス内に入ってくると、左右に緑の絨毯を敷き詰めたような芝生の中に各スポーツ施設が配置されている。

以下、各スポーツ施設を紹介をする。

② UQ アクアティックセンター (写真2)

ここには温水の50メートルプール(9レーン)と水温32度の小さな指導用のプールがある。また、センターの中にはスナックや売店もあり、水着、ゴーグル、足ヒレ、飲み物などを置いている。

センターではキャンパスで唯一使用できるバーベキューセットを準備しており、会員に利用してもらっている。また、成人対象、子ども対象の水泳教室が開かれ、水球、スキューバダイビングの練習をすることも可能である。

<アクアティックセンターの利用時間>

	9月~4月	5月~8月
月~金	5:00am~8:00pm	5:30am~7:30pm
土	6:00am~7:00pm	6:00am~6:00pm
日	7:00am~7:00pm	7:00am~6:00pm



写真2 : UQ アクアティックセンター

＜アクアティックセンターの利用料金＞

UQ スポーツ会員 (1回)	\$ 2.20
UQ 非スポーツ会員 (1回)	\$ 3.20

スポーツを通して利用できるプログラムや諸活動、許可証の発行などについて対応している。

会員になると、それぞれの要求に合わせて利用でき

③ UQ アスレティックセンター (写真3)

センターは国際規格となる8レーンの全天候型トラックと500人収容可能なスタンドを持っている。このセンターはUQラグビークラブのホームでもあり、またセンター内にあるミーティング室は近隣のラグビークラブが使用するクラブハウスのような会議室としても使用可能である。

会員は自分自身のペースで来て、センターの設備を使いながら、練習することができるし、高跳びのマットやハードルから砲丸投げや巻き尺まで利用できる。また、目的に応じた練習のために資格を持ったコーチに指導を受けることができる。



写真4 : UQ スポーツセンター

＜アスレティックセンターの利用日＞

1週間7日

＜アスレティックセンターの利用料金＞

UQ スポーツ会員 (1回)	\$ 1.40
UQ 非スポーツ会員 (1回)	\$ 2.80

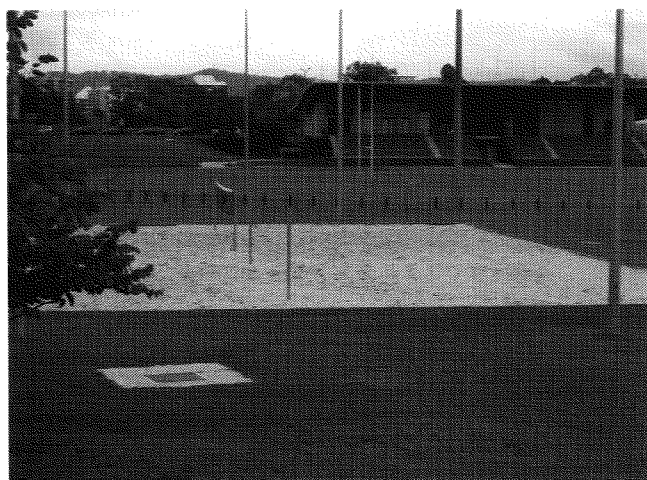


写真3 : UQ アスレティックセンターとビーチバレーコート

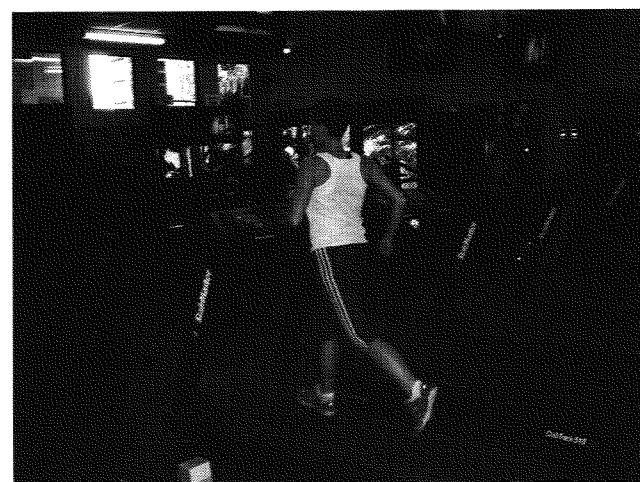


写真5 : カーディオスタジオ

④ UQ スポーツ&フィットネスセンター (写真4)

ここのセンターには3階建ての体育館、エアコンの効いたカーディオスタジオ (Cardio Studio³)、写真5)、武道場、屋内スポーツパビリオン (ISP)、6室のスカッシュコート (写真6)、多目的エリア (MPA) がある。このエリアの中心にUQスポーツの受付カウンターがあり、ここにいるスタッフはUQ

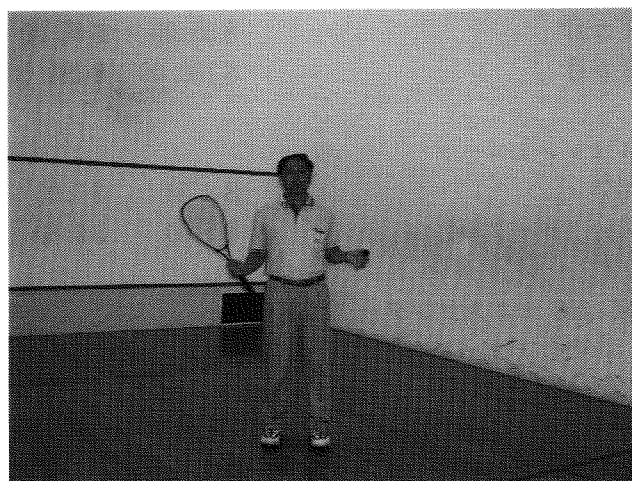


写真6 : スカッシュコート

る許可証を作ることができる。また、自分たちのチームの強化や調整のコーチを受けることができる。その他、フェンシング、ダンス（ヒップホップ、社交ダンス、タンゴ等）のコースも受けることができる。

このセンターではランチタイム スポーツを実施している。これは仕事で忙しい日常に、昼休みにスポーツをして気分転換を図ろうとするものである。月曜から金曜日までの昼休みに、屋内バレーボール、屋内サッカー、タッチフットボール、スカッシュ、バスケットボール、ハンドボールを行っている。

<S&Fセンターの利用時間>

月～木	5:30am～11:00pm
金	6:00am～9:00pm
土	7:00am～9:00pm
日、祭日	9:00am～9:00pm

<S&Fセンターの利用料金>

	会員	非会員
GYM & CARDIO		
GymまたはCardio (1回)	\$4.00	\$10.00
Gym+Cardio (1回)	\$6.60	\$13.20
GymまたはCardio		
10回	\$36.00	\$90.00
1カ月	\$45.00	\$99.00
3カ月	\$110.00	\$210.00
セメスターパス	\$135.00	—
6カ月	\$195.00	\$320.00
12カ月	\$320.00	\$420.00

グループ利用

1回	\$6.00	\$11.0
10回	\$54.00	\$100.00
1カ月	\$55.00	\$80.00
3カ月	\$130.00	\$195.00

スカッシュコート

30分	\$3.50	\$7.00
30分(ピーク時)	\$5.00	\$8.80

⑤ UQ テニスセンター (写真7)

このセンターには21面の照明灯付きのコートがある。人工芝のコート2面、リバウンドクラシック(Rebound Classic)コート5面、ハードコート14面である。さらには、テニス用品を揃えたプロショップがあり、カフェ&バーも併設されている。

会員はラケットやボールを借りることができる。また、初級、中級、上級クラスのテニスコーチ養成コースに入り、コーチの資格も取ることができるし、上達のためにプライベートレッスンを受けることもできる。

<テニスセンターの利用時間>

日～金	6:00am～11:00pm
土	6:00am～6:30pm
祭日	時間制限あり

<テニスセンターの利用料金>

	5時まで	5時以降
UQ スポーツ会員/学生		
1時間	\$7.50	\$9.50
UQ スポーツ非会員		
1時間	\$15.00	\$18.00



写真7: UQ テニスセンターとプロショップ

⑥ UQ オーバル&屋外コート

UQには8つのスポーツをするオーバルがある。それらはクリケット、ホッケー、タッチフットボール、オージーラグビー、ラグビーのようなスポーツのために、季節に応じて準備してある。

またソフトボール場、ビーチバレーボールコート2面(写真3)、クリケットの練習ネット9張り、屋外バスケットボールコート、屋外バレーボールコートがある。

<オーバル&屋外コートの利用時間>

月～日	6:00am～11:00pm
-----	----------------

＜オーバル&屋外コート1時間あたりの利用料金＞

	会員	非会員
オーバル	\$ 33.00	\$ 66.00
ネットボールコート	\$ 7.50	\$ 15.00
屋外コート	\$ 7.50	\$ 15.00
ビーチバレーボールコート	\$ 12.50	\$ 25.00
クリケットのネット	\$ 7.50	\$ 15.00

なお、UQ アクアティックセンター、UQ アスレティックセンター、UQ スポーツ&フィットネスセンター、UQ テニスセンター、UQ オーバル&屋外コートの利用料金は上記の通りであるが、各センターでのコーチ料、各講座の受講料、用具使用料、修理代、スポーツマッサージ、スポーツ医学の受診・相談等は別料金となっている。

また、このUQスポーツではレクリエーションコース、アドベンチャー活動、大学内のスポーツイベントから地域スポーツまで、幅広くバラエティーに富んだプログラムを用意している。

(4) UQ スポーツ&フィットネスセンター調査報告

UQ スポーツ&フィットネスセンターはセンターの質の向上を目的に、センター利用者に対して調査を実施した。調査期日は2002年12月で、対象者は191名である。同調査は2001年にも実施されており、それとの比較を含めて調査結果を掲載する。尚、2001年の対象者は174名である。

表-1 センターでの実施種目(場所)

	2001年	2002年
ジム	34%	38%
カーディオスタジオ	8%	24%
バスケットボール	15%	4%
バレーボール	1%	—
バドミントン	5%	3%
ランチタイム スポーツ	1%	2%
武道	11%	6%
ダンス教室	3%	2%
卓球	3%	—
見学	—	—
他	21%	21%

表-2 同伴者

	2001年	2002年
一人で	43%	47%
友だちと	55%	48%
家族会員と	2%	5%

表-3 自宅からセンターまでの距離

	2001年	2002年
5 km以内	37%	37%
5～10km	34%	22%
10km以上	30%	40%

表-4 センターまでの交通手段

	2001年	2002年
車	63%	55%
徒歩	18%	18%
バスまたは電車	7%	16%
自転車	10%	9%
その他	3%	3%

表-5 センターの利用継続期間

	2001年	2002年
1 カ月以内	5%	8%
1 カ月～6 カ月	16%	20%
6 カ月～1 年	19%	18%
1 年～2 年	19%	17%
2 年以上	41%	36%

表-6 1週間の利用回数

	2001年	2002年
1 回以下	11%	8%
約1 回	16%	21%
約2 回	27%	28%
3 回以上	45%	43%

表-7 1回の利用時間

	2001年	2002年
30分以内	1%	2%
30～60分	24%	34%
60～90分	45%	41%
90分以上	31%	23%

表-8 利用時間帯

	2001年	2002年
早朝～午前9時	6%	18%
午前9時～午後12時	10%	19%
午後12時～午後3時	12%	18%
午後3時～午後6時	39%	27%
午後6時以降	34%	18%

表-9 利用者の年齢層

	2001年	2002年
12～17歳	1%	1%
18～21歳	35%	40%
22～25歳	31%	29%
26～29歳	10%	10%
30～39歳	12%	14%
40～49歳	8%	3%
50～59歳	3%	2%
60～64歳	—	—
65歳以上	—	2%

表-10 利用者の性別

	2001年	2002年
女性	30%	48%
男性	70%	52%

表-11 障害の有無

	2001年	2002年
有	2%	3%
無	98%	97%

表-12 人種

	2001年	2002年
オーストラリア	61%	67%
オーストラリア以外の英語圏	18%	16%
オーストラリア以外の非英語圏	21%	17%

表-13 利用者層

	2001年	2002年
学生	71%	80%
大学職員	2%	7%
地域住民	27%	12%

表-14 利用日

	2001年	2002年
ウィークデー	46%	52%
ウィークエンド	11%	6%
両方	43%	42%

2. シドニー大学

(1) シドニー大学 (以下SUと略す) の概要

1850年に創立されたオーストラリアで最も古い大学で、現在約4万人の学生が在学している。医学、法律、農業、エンジニアリング、経済、建築、自然科学、社会科学、音楽、教育等と幅広い分野で優秀な人材を輩出している。伝統的な学術教育にとどまらず、時代の要請に応じて新たな発展を続けている大学である³⁾。

メインキャンパスはシドニー市街からバスで5分くらいの所に位置し、パラマッタ通りからビクトリアパー



写真8：伝統的なシドニー大学の講堂

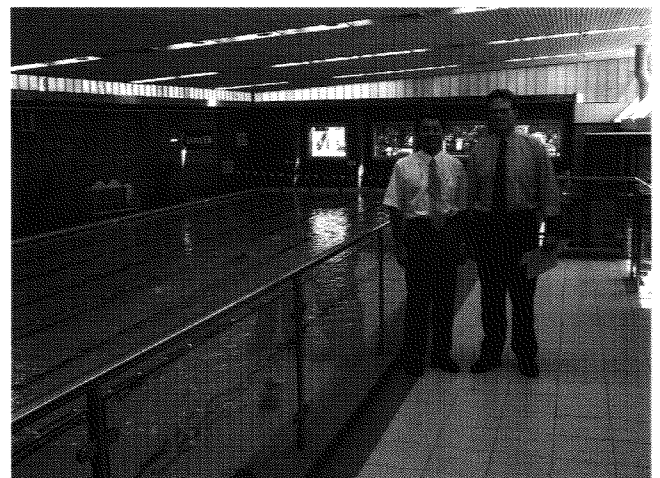


写真9：D. ホッパー氏と室内プールにて

クを通り過ぎると、広いキャンパス内に威風堂々とした伝統的な講堂(写真8)が現れてくる。

このシドニー大学では Sydney University Sport の運営部のマネージャーである David Hopper氏(写真9)に Sydney University Sport について面接調査することが出来た。

(2) Sydney University Sport の管理・運営組織

Sydney University Sport (以下 SU スポーツと略す) はオーストラリアでその歴史が一世紀を越えるスポーツクラブであることに誇りを持っており、現在、30,000人を越える一般会員と終身会員、そして40を越えるスポーツクラブから構成されている。

SU スポーツは1890年に設立された Men's Sports Union と1910年に設立された Women's Sports Association との間で合併が行われて、2003年に設立された「古くて新しい」組織である。

この SU スポーツは現在、44のスポーツクラブとレクリエーションクラブの管理、運営を行ったり、スポーツやレクリエーションのイベントを企画したり、学生会員や学生でない一般会員に幅広くスポーツ施設を提供したりしている。

新しい SU スポーツの管理・運営組織図は図2-1の通りである。筆頭ディレクターのもとに大きく4つの部門を設けている。まず、スポーツ&レクリエーション部はクラブベースの任務を、アスリートプログラム部は奨学金などで学んでいる競技者へのバックアップを、財務、管理部は財務管理を、そして運営部は施設の管理、運営や一般開放などにあたっている。それぞれの部門には専任のスタッフが配置されており、各部門はさらに枝分かれして、専任のスタッフが配置されている。

(3) SU スポーツの会員資格

SU スポーツの会員にはプールや体育館などの施設利用料金の割引や全てのスポーツやレクリエーション活動への参加などの特典が与えられる。シドニー大学の学部学生は自動的に会員になり、その他、大学の卒業生や職員、職員の同伴者も会員になれる。

① 学生会員

これは学費を払った学部学生に自動的に与えられるものである。会費\$138.00は学費の中に含まれている。また、卒業して別な学部で学ぶ学生は新たに SU スポーツに会費を払うことによって会員になれる。

② 年間会員

他の大学の卒業生やシドニー大学の職員、大学院生は年会費\$138.00を払って会員になれる。

③ 準会員

会員になっているクラブによって推薦され、そのクラブを代表しようとする意志を持った人で、エグゼクティブ ディレクターに認められた者である。年会費は\$138.00である。

④ 制限付き準会員

この会員は SU スポーツの会議や選挙などにおいて投票権を持たない会員である。年会費は\$90.00である。

⑤ ジュニア会員

10~17歳で、制限付き準会員と同じ扱いになる。年会費は\$11.00である。

⑥ 終身会員

5年間、会費を払った大学の卒業生、教職員に与えられるもので、年会費は\$11.00である。

(4) SU スポーツの施設、利用時間、利用料金

シドニー大学内にある SU スポーツの施設は図2-2の通りであるが、以下、主な施設と利用時間、利用料金などを紹介する。

① 大学スポーツ&アクアティックセンター

ここのセンターには50mの室内温水プール、カーディオシアター(Cardio Theatre⁵⁾、写真10)、ウェイトルーム、エアロビクスルーム、そしてバスケットボール、バレーボール、バドミントン、サッカー、ネットボール、その他の屋内スポーツが行える多目的スポーツホール、テニスコート6面、スカッシュコート5室、



写真10: カーディオシアター

図2-1 SUスポーツの管理・運営組織図

Draft Organisational Chart
Sydney University Sport

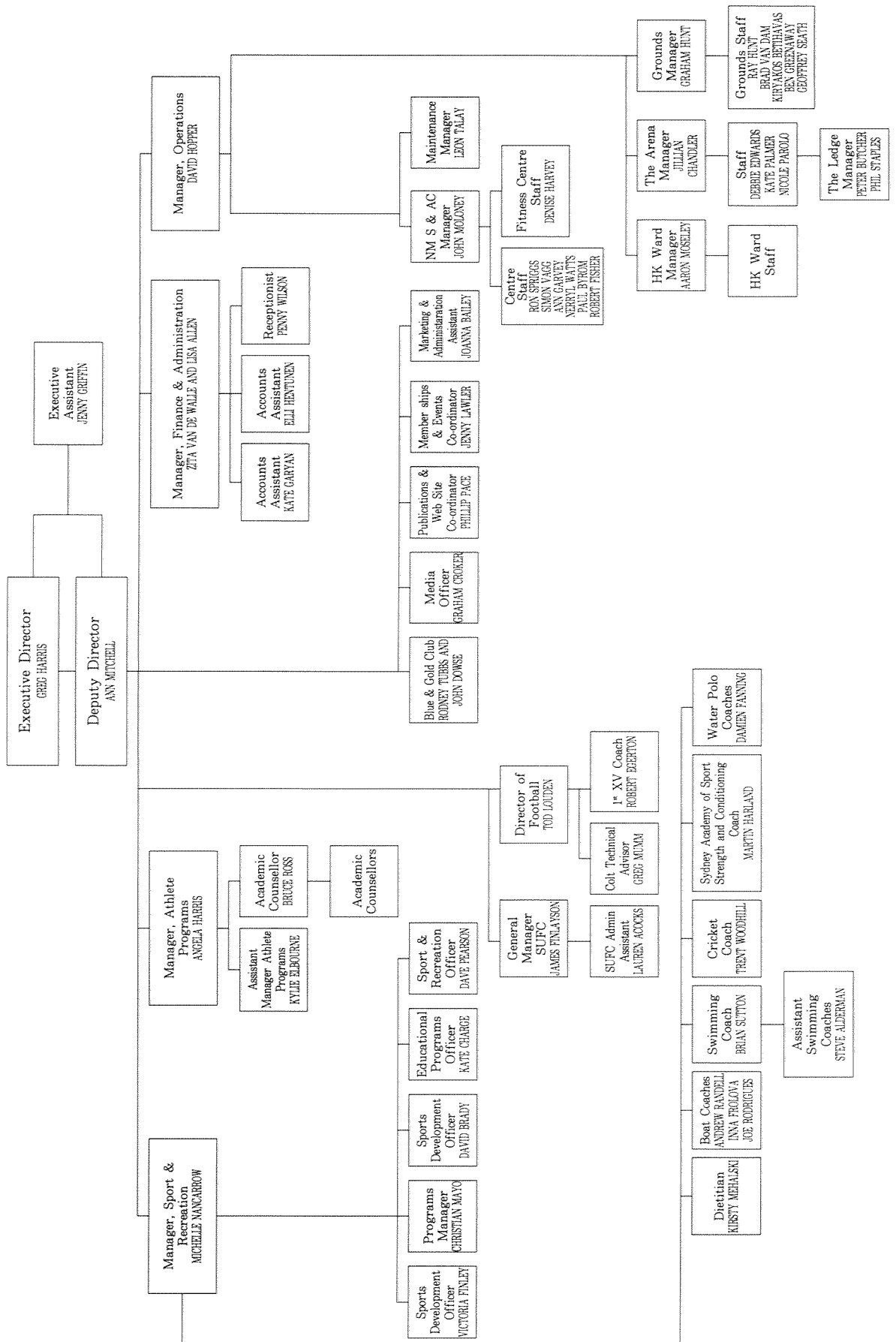
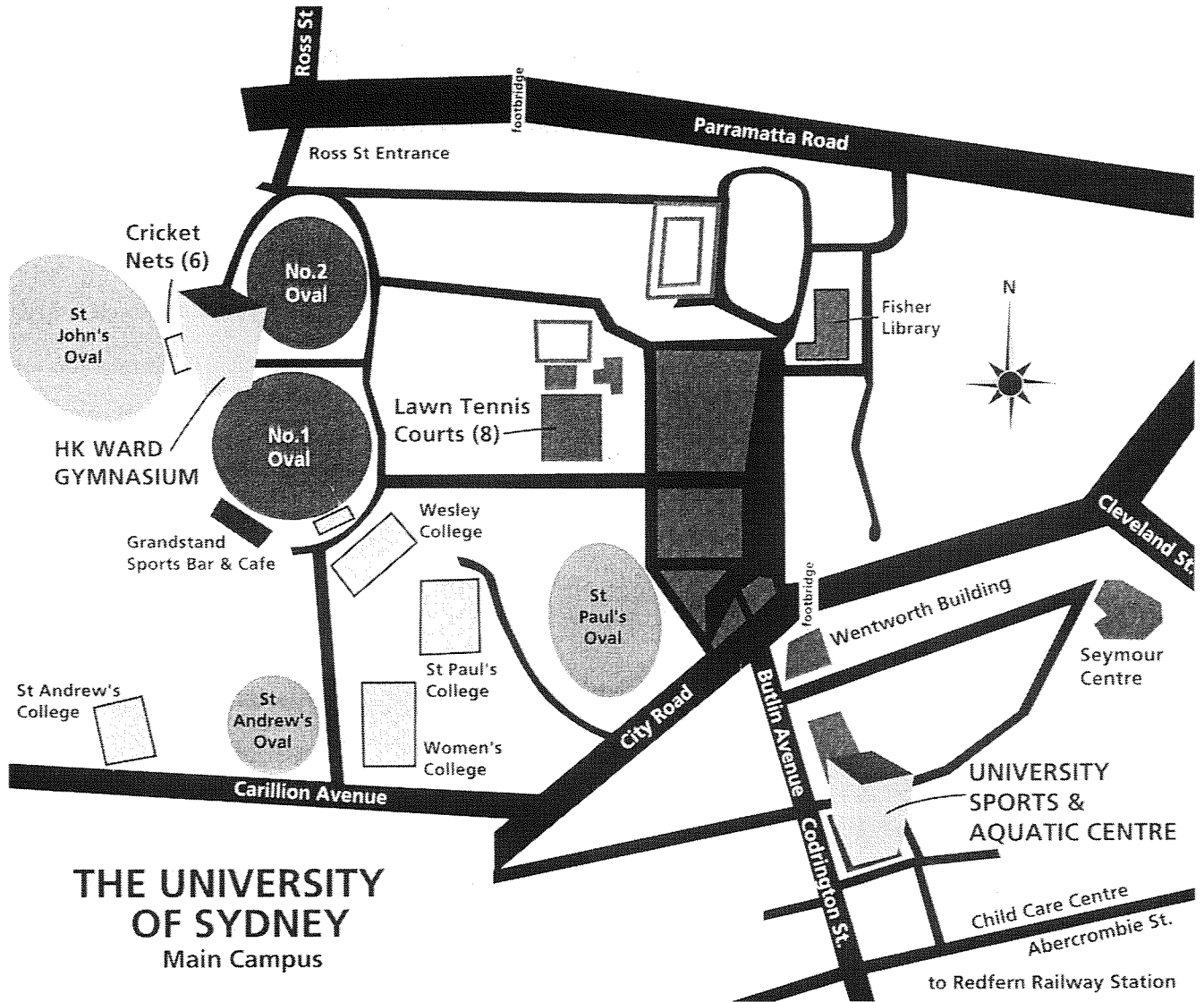


図2-2 SUスポーツの施設



カフェー、スポーツ店、ブックショップ、コピーセンター、Ooni 寿司バーがある。

センターでは水泳指導、テニス指導など、様々なサービス（有料）を行っている。しかし、このセンターを利用できるのは会員だけである。

年間会員には以下の種類があり、それぞれ会費を払って利用している。

<会員の種類と会費>

シドニー大学生	\$ 5.50
シドニー大学スポーツユニオン会員	\$ 16.50
女性スポーツ協会会員	\$ 16.50
シドニー大学職員、卒業生	\$ 27.50
外郭団体、地域住民会員	\$ 38.50

また、センターの利用にあたって、会員の運動欲求（利用したい施設、方法）に合わせて、Swim Pass、Fitness Pass (Swim & Lifestyle, Swim & Gym)、Executive Passの4種類のパスがある。

例えば、Swim Passの場合はプールの利用に時間制限なしとかシャワーやバスルームを自由に使用できるなどがついている。また、Swim & Gymの場合は時間制限なしでプールやカーディオルーム（Cardio Room⁶⁾）やウエイトルームの利用、シャワーやバスルームの利用の他、様々な特典がある。

<US & A センターの利用時間>

月～金曜日	5 : 30am～10 : 45pm
土	6 : 00am～ 8 : 00pm
日	6 : 00am～10 : 00pm

<4種類のパスによるUS&Aセンターの利用料金>

Swim Pass	学生	その他
1回	\$ 3.00	\$ 3.80
10回	\$ 25.00	\$ 34.00
1カ月	\$ 35.00	\$ 50.00
3カ月	\$ 80.00	\$ 115.00
6カ月	\$ 150.00	\$ 200.00
12カ月	\$ 240.00	\$ 315.00

Swim & Lifestyle・Swim & Gym

	学生	その他
1回	\$ 7.00	\$ 12.00
10回	\$ 60.00	\$ 100.00
1カ月	\$ 60.00	\$ 90.00
3カ月	\$ 140.00	\$ 220.00
6カ月	\$ 240.00	\$ 330.00
12カ月	\$ 340.00	\$ 500.00

Executive Pass	学生	その他
1回	\$ 12.00	\$ 18.00
10回	n/a	n/a
1カ月	\$ 85.00	\$ 135.00
3カ月	\$ 190.00	\$ 280.00
6カ月	\$ 300.00	\$ 430.00
12カ月	\$ 460.00	\$ 740.00

<1コート, 1時間あたりの利用料金>

○スカッシュコート	学生	その他
ウィークデー		
6:00am~4:00pm	\$ 10.00	\$ 10.00
上記以外(混雑時)	\$ 18.00	\$ 18.00
ウィークエンド	\$ 15.00	\$ 15.00

○テニスコート(写真11)

ウィークデー		
6:00am~4:00pm	\$ 8.00	\$ 10.00
上記以外(混雑時)	\$ 18.00	\$ 18.00
ウィークエンド	\$ 15.00	\$ 15.00

<1時間あたりのスポーツホールの利用料金>

	学生	その他
各コート全面	\$ 40.00	\$ 50.00
バドミントン	\$ 15.00	\$ 20.00
ホール全面	\$ 80.00	\$ 100.00



写真11: SU テニスコート

② アリーナスポーツセンター(写真12)

以前, この建物にはシドニー大学女性スポーツ協会が入っていたが, 現在は健康なライフスタイルを作るための専門的なアドバイスを受けることができるアリーナスポーツセンターに変わっている。

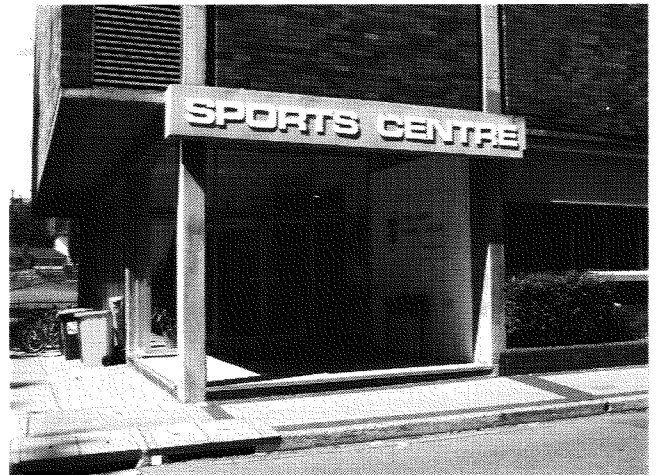


写真12: 以前のシドニー大学女性スポーツ協会の建物

このセンターには広いウエイトルーム, カーディオールーム⁵⁾, そしてバドミントンやフェンシングが行える多目的スポーツホール, 岩たなクライミングセンター(写真13), スカッシュコート2室, カフェー, スポーツクリニックがある。

<アリーナスポーツセンターの利用時間>

月~金	6:30am~10:00pm
土	8:00am~5:00pm
日, 祭日	9:00am~4:00pm

また、アリーナスポーツセンター内にある岩たなクライミングセンターは資格を持ったインストラクターのもとに、十分な安全性を確保されて、体全部を使って練習できる山登りの施設がある。岩たなは全ての年齢層の人々に適しているものである。利用時間は以下の通りである。

＜岩たなクライミングセンターの利用時間＞

月～金	11:00am～10:00pm
土	11:00am～5:00pm
日, 祭日	クローズ

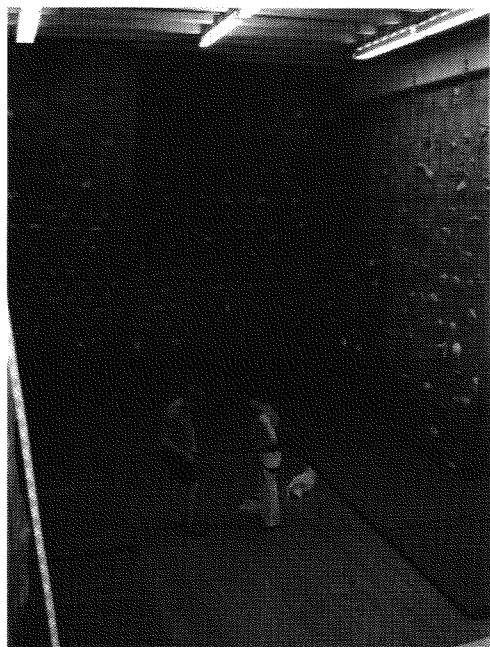


写真13：岩たなクライミング

レイングフィールドがある。これらのグラウンドは多くのスポーツクラブの試合や練習に使われ、また昼休みの社交スポーツ、レクリエーション活動や教職員のスポーツに最適な場所となっている。

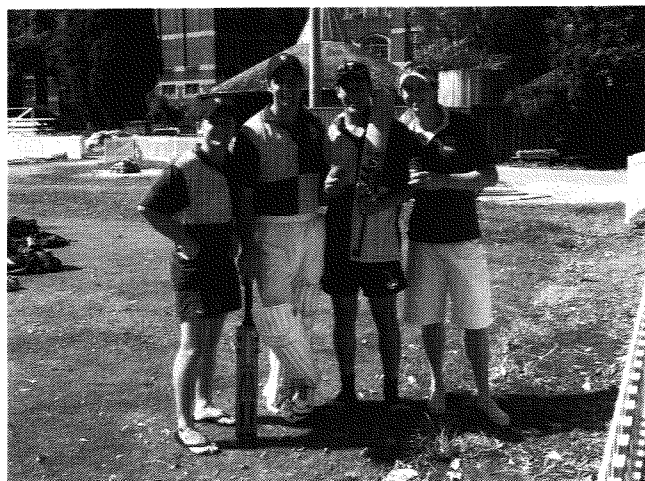


写真14：第1オーバルとSUクリケットクラブ員

(5) SUの学生への面接聴き取り調査

夏休みが終わってキャンパスに帰ってきた学生達にSUスポーツについて質問してみた。質問はキャンパス内のベンチで休んでいる学生、クラブへの勧誘をしている学生達に面接して聞き取る方法で行った。従って、調査対象学生の属性は様々であり、条件や限定はない。

3年男性A（韓国からの留学生）

SUスポーツの会員になるために自動的に支払われている\$138.00のことは知らないが、大学スポーツ&アクアティックセンター（以下センターと略す）へ\$5.50払って、会員にはなっている。月に2回ほど友だちとバスケットをして汗を流している。

3年女性B

自動的に会員になっているのは分かっている。センターにも\$5.50払っている。2週間に1回くらいスカッシュやテニスを行っている。そのたびに利用料金を払っているが、楽しみと健康のためにスポーツを行っているし、友だちもできるので高いとは思っていない。

1年男性C

センターの場所は知っているが、自動的に会員になっていることは知らない。センターの会員になる申し込みの手続きはした。

4年男性D

センターの場所は知っているが利用したことはない。会費のことも、それから利用するたびに料金を払うこ

③ HK WARD 体育館

HK WARD 体育館は全てのレクリエーション的活動のために、周りのスポーツ施設の予約や全般的な照会の連絡地点となっている。

このHK WARD 体育館内には武道場、スポーツホール、ボクシングジム、レクリエーションに関する事務室などがある。

＜体育館の利用時間＞

月～金	11:00am～10:00pm
土, 日	10:00am～6:30pm

④ スポーツグラウンド (写真14)

大学内には第1オーバル、第2オーバルと四角いプ

とも知っているが、それは高いとは思わない。私は基本的には利用しないが、支払っている会費などは必要な人のために役立ててもらえればそれでよい。

彼は自ら同性愛者であることを名のって、クラブ勧誘を行っていた。欧米諸国がセクシャリティの多様さに対して寛容であるという一面が感じ取れた。

3年男性E

会員制などのことは知っている。\$138.00は高い。せめて\$50.00くらいにして欲しい。センターは何時も利用している。サッカーの利用料金は安い、スカッシュは高い。

2年男性F

会員制などのことは知っている。会費は利用する人だけが払って、利用しない人は払わなくても良いのではないかと思う。私はプールをよく利用する。スポーツをする目的は楽しみのため、健康を保つため、心身のリラックスのためである。

3年女性G

会員制などのことは知っている。センターへの\$5.50も払っている。会費は高いとは思わないが、利用しない人の会費はどこに使われているのだろうか。センターは過去1~2回利用したことがあるが、健康管理は難しい。勉強ばかりしているので、今後ヨガなどを習いたい。

4年女性H

会費の\$138.00のことは知っているが、利用しない人にとっては高いと思う。強制的に支払わせられていることについては仕方ないと考えている。私はセンターを利用してないが、駅まで歩いて25分かかるので、それを健康維持の方法だと考えている。

3年女性I

会費の\$138.00のことは知っているが、利用しない人から強制的に徴収するべきではない。私はセンターを利用してないが、健康維持のために自宅近くのジムを利用している。

69歳男性J (大学から5kmに居住、乗用車利用)

センターの会員で、健康を保つため週4回、30分くらい泳いでいる。利用料金は高いとは思わない。

3. その他の大学

上記の2大学や他の州の大学はだいたい広大なキャンパスに十分なスポーツ施設を備えているが、シドニー工科大学やRMIT大学のような理工系中心の単科大学は典型的な都市型キャンパスで、建物だけがあって、スポーツ施設はビルの中の一隅にあるという程度であ

る。しかし、その施設では順番待ちの状態で多くの学生がスポーツ機器を利用していた。

シドニー工科大学ではフィットネスセンターの管理者であるJoe Ferreira氏(写真15)にセンターの現状について面接調査することが出来た。以下センターについて簡単に紹介することにする。

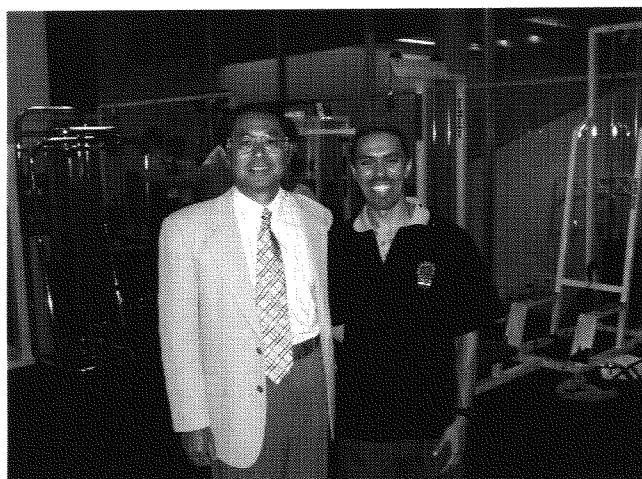


写真15: J. フェレイラ氏とウエイトルームにて

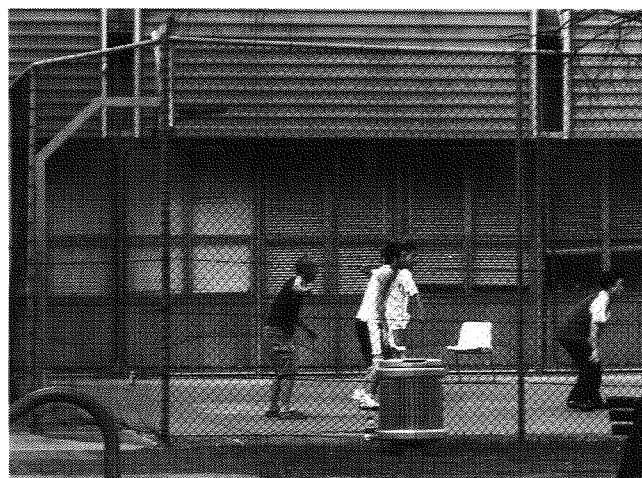


写真16: 狭い中庭にあるバスケットボールコート

シドニー工科大学の校舎の多くはシドニーの中心街にあり、校舎は市道を挟んだ大きなビル6棟からなり、約2万人の学生が学んでいる。ビルの谷間に中庭があり、そこにバスケットボールコート1面(写真16)と少々芝生の上にベンチが置いてある。フィットネスセンターは第4ビルの1階に、カーディオシアター(中2階に設置、写真17)、化学の実験室を取り壊して作ったウエイトトレーニングルーム、武道場、スカッシュコート、事務室があり、これらが窮屈な状態で並んでいる。



写真17：中2階にあるカーディオシアター

<フィットネスセンターの利用時間>
 月～金 7:00am～9:00pm
 土 9:00am～3:00pm

<フィットネスセンターの利用料金>

	UTS の学生・職員	一般
1回	\$ 4.00	\$ 8.00
1カ月	\$ 35.00	\$ 80.00
3カ月	\$ 80.00	\$ 150.00
6カ月	\$ 140.00	\$ 230.00

<スカッシュコートの利用料金>

30分間	\$ 4.00	\$ 10.00
------	---------	----------

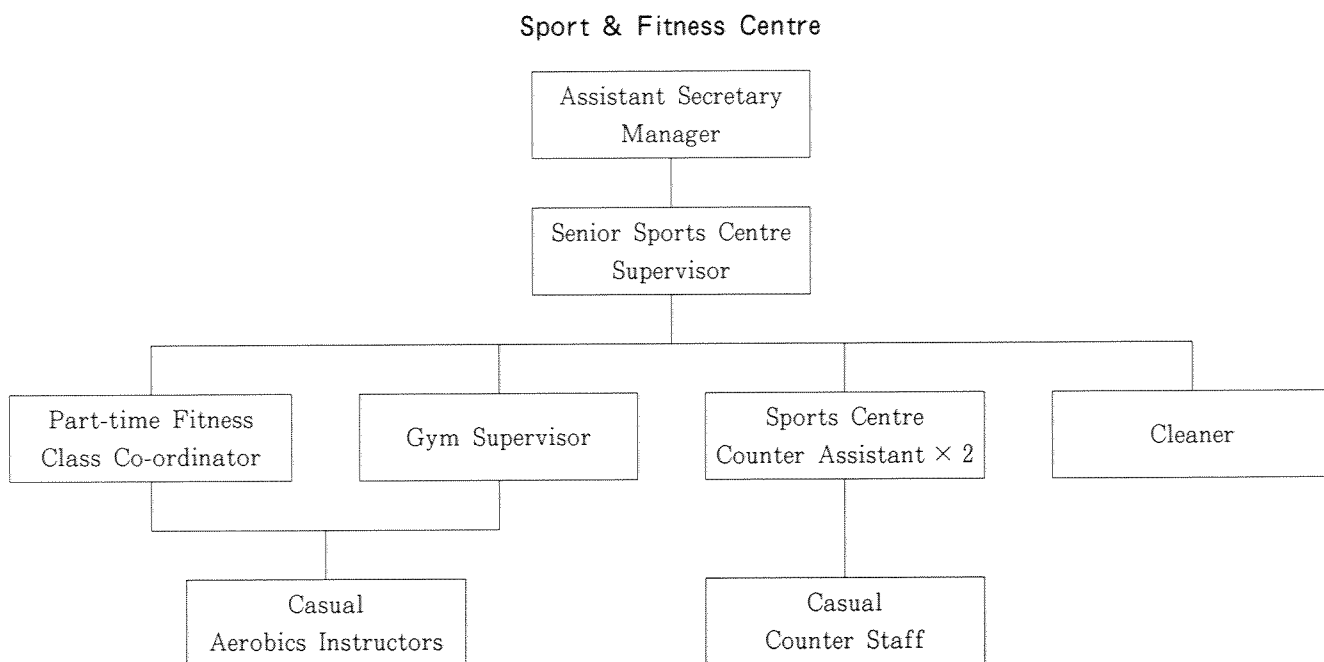
<ラケット、タオルの利用料金>

	\$ 2.50	—
--	---------	---

フィットネスセンターの管理・運営の組織図は図3-1の通りであるが、運営費は学生が払う組合費（年間\$199.00）の一部で賄われている。学生から年会費はとらない。利用料金だけ支払うというシステムの方が誰でも利用することができるという考えからだそうである。

学生の利用は多い時で1週間に3,000人にも及ぶそうである。スポーツ活動に高い欲求を示す数字である。現在、学生からはプールの設置の要望が出ているが、工事費、維持費が高く、経営困難が予想されるので控えているところだという話しであった。

図3-1 UTS フィットネスセンターの管理・運営組織図



Ⅲ おわりに

機会を得て、オーストラリアとニュージーランドの大学スポーツセンターを視察することができた。オーストラリアでは上記の大学を視察してきたが、東海岸に位置するクイーンズランド州、ニュー・サウス・ウェールズ州、ビクトリア州と西海岸の西オーストラリア州ではスポーツセンターへの取り組みに違いを見ることができた。

東海岸では大学スポーツセンターを組織的に構成し、学生、大学職員、一般社会人に開放しているのに対して、西海岸の大学ではスポーツ施設をスポーツ教室というような形式で開放はしているが、東海岸のようなスポーツセンターの存在を確認することができなかった。

ニュージーランドはオーストラリアの東海岸の大学に近い形で、大学スポーツセンターを組織的に構成して、学生、大学職員、一般社会人に開放している。

本調査報告ではクイーンズランド大学、シドニー大学、シドニー工科大学の大学スポーツセンターを紹介してきた。これらの大学（オーストラリア西海岸の大学を除く）に共通する状況として以下のことが挙げられる。

- ① 大学のスポーツ施設を学生をはじめ大学職員、一般社会人に、有効かつ効率的な方法で積極的に開放している姿勢がみられる。
- ② スポーツ施設の管理、運営は独立採算性で行われており、営利を追求するという意識がみられる。
- ③ 学生の自動的会員制に対して、政府から自由会員制への移行指導の方針が示されており、その対応が課題として挙げられている。
- ④ 利用者のスポーツニーズに合ったプログラムの提供と魅力あるプログラムの開発が行われている。
- ⑤ スポーツセンターには指導スタッフが常置されていて、指導やサービスにあたっている。
- ⑥ 大学生全てにスポーツの生活化が浸透しているわけではなく、運動不足は日本の大学生と同様、深刻な問題となっている。
- ⑦ オーストラリアの大学には、日本の大学のような共通教育科目としての体育の授業がなく、体育専門の学生が授業でスポーツ施設を使う程度である。従って、施設開放には余裕がみられる。
- ⑧ 大学に限らず、オーストラリア社会には受益者負担という意識が浸透しており、お金を払って施設を

利用するという習慣が浸透している。

以上のような、オーストラリアの大学スポーツを参考に日本の大学スポーツの開放という視点から大学スポーツセンターを構想するとどのような問題点が挙げられるであろうか。

- ① 現在の共通教育科目としての体育の授業と課外活動との時間的・空間的バッティングの問題。
 - ② 会費、利用料金という受益者負担への抵抗。
 - ③ 現体育教官の授業ノルマと施設利用者への指導、サービスに費やされる時間が、教官の負担増をもたらすという問題。
 - ④ 維持費等を含めた管理、運営経費をどう捻出するかという問題。
- 等が挙げられるであろう。

まず、①の体育の授業との関係であるが、これは授業の曜日、時間帯を集中させることによってある程度解決できる。しかし、課外活動との関係は非常に難しい。福島大学の場合、第1体育館、第2体育館、体操場、柔剣道場は毎週午後4時半～7時半、陸上競技場、野球場、テニスコート、サッカー場も4時半～日没あるいはナイター設備利用時間まで塞がっている状態である。

欧米諸国ではクラブ活動は地域での展開が通常であるのに対して、日本のクラブ活動は学校中心の現状である。学校からクラブ活動を追い出すことはクラブの廃部につながることであり、どのように課外活動と大学開放を共存させるかが大きな課題であると同時に、これからのスポーツのあり方に対する意識改革が迫られるところである。

②の受益者負担に対しては、それ相応の指導、サービス体制が整うと、理解される問題であろう。

③の体育教官の負担増の問題であるが、ある程度のノルマオーバーは覚悟しなければならない。それと同時に、学生、院生の活用が考えられる。学生や院生にとっても、地域貢献は必須である。

④の管理、運営経費は大学スポーツセンターを独立採算性にするのか、大学予算の一部に組み込んだ形にするのかによって大きく変わってくる。福島大学の現状では地理的条件（地域性）から維持費程度の収入を得ることはある程度可能であろうが、学生数、地域住民の利用者数の問題等から、現時点では独立採算による経営、運営は難しいのではないかと考えられる。

本調査報告書は平成14年度文部科学省短期在外研究員として、平成15年2月19日から4月29日までの70日

間、「オーストラリアにおける大学スポーツの地域貢献に関する研究」でオーストラリア、ニュージーランドの各大学のスポーツセンターの視察を行った際に収集した資料に基づいたものである。

・本調査報告書が新生の国立大学法人福島大学に寄与するとともに、日本の大学スポーツの開放に貢献するものとなれば幸いである。

注

1) 地球の歩き方編『オーストラリア・ニュージーラン

ド留学』(株)ダイヤモンド・ビッグ社 2000年3月31日

2) 1 オーストラリアドル=81円 (2003年7月現在)

3) トレッドミル, バイク, ボートこぎ機, 踏み段等を備えた部屋

4) 前掲書 注1)

5) 注3)の機器を備えた部屋で, TV モニターを設置して, 画像を見ながら運動をする部屋

6) 注3)と同様